

# 令和元年度 N I E 実践報告

鹿児島市立谷山小学校

## 1 本校N I E 教育目標

N I E 教育目標		
教育活動に新聞を活用することにより，子供の目を広く社会全体に向けるとともに，情報を正しく選択し，内容を読み解きながら適切に活用していく思考力・判断力・表現力を高める。		
低学年目標	中学年目標	高学年目標
新聞を使って遊んだり，写真や漫画を選んだりしながら新聞に親しむことができる	調べたことを新聞に表したり，必要な情報を得るために新聞を読んだりすることができる。	編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むことができるとともに，適切な情報の活用の仕方，情報を発信する責任の大きさについて理解することができる。

## 2 実践内容

### (1) 学習指導要領に基づいた教科・領域での活用（新聞記者の活用）

4年生の国語の単元「新聞をつくろう」では，新聞への興味関心を高める目的で，南日本新聞社の記者の方に来ていただき，新聞社の仕事や記事の書き方，取材の仕方などについての講話をいただいた。新聞を実際につくっている新聞記者の方からの話は，新聞をつくる児童の意欲の高まりにつながっていた。

また，5年の国語の単元「新聞を読もう」では，昨年度の授業を踏まえて，今年度は指導案を改善した形で授業を行った。子供たちが，集中して話を聞けるよう，活動に使う新聞は直前まで配布しないことで，話を集中して聞き，新聞を読むときのポイントを子供たちが意識して，新聞を読む姿が見られた。

### 5年国語「新聞を読もう」



### (2) N I E タイムの設定（学期に一回）

教育課程に記載した活動内容を参考に，各学期に1回ずつ，計3回実施をした。

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
ひらがな探し カタカナ探し 新聞遊び	言葉探し 漢字探し	気になる記事探し	都道府県探し 記事読解	記事読解 記事探し (ファミリーフォーカス)	記事読解 記事探し (ファミリーフォーカス)



低学年の取組の様子  
ひらがな探し、カタカナ探し



低学年は、文字探しのほかにも、新聞を使っての遊びも行った。新聞をとっていない家庭が増えてきているため、まず、低学年は新聞に慣れ親しむところから行った。新聞を遊びに取り入れることで、低学年の児童も新聞に抵抗を感じることなく、進んで取り組む姿勢が見られた。決められた文字や自分の名前に使われている文字を積極的に見つけようとする姿が見られた。

3年生以上は、ファミリーフォーカスにつながる活動を中心に行った。学年の実態に応じて、記事を自由に選ばせたり、こちらで興味関心が高そうな記事を数点ピックアップしたりしながら、記事をじっくり読み、分かったことや気づいたことを書く姿が見られた。3学期のNIEタイムでは、4年生以上ははがき新聞コンクールに向けて、はがき新聞の書き方やテーマの決め方について学習し、それぞれではがき新聞に取り組んだ。



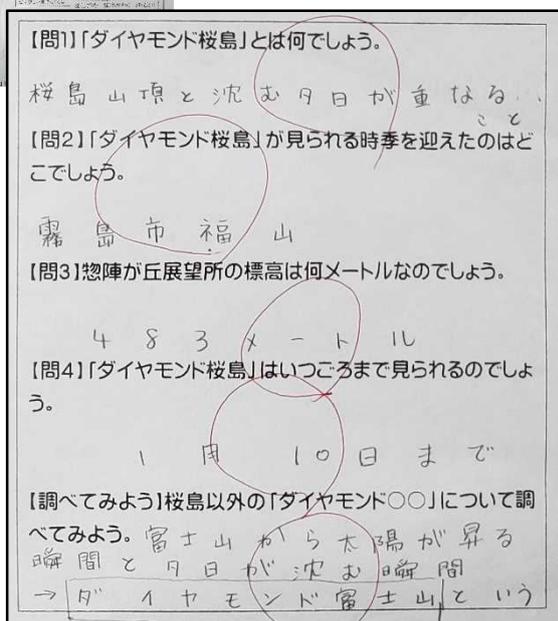
3年生の取組の様子  
記事の読み取り

さらに、6年生においては、南日本新聞社から出されているワークシートを活用し、読み取る力を高める活動を、発展的に週に1度、課題として取り組んだり、月に一度の俳句への投稿を行ったりした。



6年生の取組の様子

はがき新聞、ワークシート、俳句



### (3) NIE コーナーの設置

児童の教室前の廊下に新聞を簡単に手に取ることができるように NIE コーナーとして新聞を設置した。また、児童の集まる図書室には、子供新聞を置くようにした。昨年度に引き続き、広報委員会の新聞係と連携を取り、週 2 回ある委員会の時間をつかって新聞の入れ替えを行っている。また、6 年生においては、教師がピックアップした記事のスクラップを掲示し、児童の興味関心を高める手立てをとるようにした。



図書室での様子



教室前廊下への設置



休み時間だけでなく、給食後の歯磨き中などに読む姿が見られた。

### (4) 親子での取組（ファミリーフォーカスの取組）

昨年度から実施している、家庭も巻き込んでのファミリーフォーカスの取組を今年度も実施した。記事を読解し、その記事に対する自分の考えを書き、それを保護者が読み、感想を書く手順での全学年各学期に 1 回の計 3 回を実施した。4 年生以上は冬休みにファミリーフォーカスの代わりとして、よむのびコンクールを実践し応募した。さらに、各学年の多様な見方・考え方に触れさせるために、各学級 1 枚ずつ回収し「広がれ家族の話・和・輪」と題し、それぞれの学年がよく通る場所に掲示した。同じ記事でも児童の記事を読む視点が異なることや、新聞社によって同じ内容でも記事の書かれ方が違うことなどに児童は気づいていた。



## 3 成果と課題

### (1) 成果

- 校務分掌の中に N I E 担当を位置づけることで、各学年の実態に応じた新聞を活用した取組を行うことができた。
- 各学期限られた活動の中で、N I E 活動を昨年度より充実することができた。

### (2) 課題

- 各教科における、新聞活用や新聞記者の活用の機会を意図的・継続的に実施。
- 新聞をじっくり読める場の設定。